

登録コード	HM103100	開講年度	2026				
授業題目	病理解剖・組織学特論					担当教員	奥山 隆平 他
英文授業名	Anatomic Pathology & Histopathology					副担当	大谷 真紀・立石 文子
単位数	2	講義期間	不定期	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	博士課程1年次
講義室				授業形態	講義	備考	
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	(授業の達成目標)
	2026HM医学分野初，2025HM医学分野初，2024HM医学分野初，2023HM医学分野初						
	【専攻】医学または保健学の研究に対する世界標準の専門分野における深い知識・卓越した技能					⇔	病理解剖・組織学における深い知識・卓越した技能
	【専攻】医学・保健学研究において基礎・応用・臨床の枠を越え、課題の本質を見抜き解決方法を見出す洞察力					⇔	病理解剖・組織学研究において、課題の本質を見抜き解決方法を見出す洞察力
(2)詳細/Detailed information	患者の死後、遺族の許可のもとに行われる病理解剖（剖検）は、患者の生涯にわたる疾病の状況、あるいはその痕跡を明らかにする機会である。さらに臨床記録との突き合わせにより、臨床医家に学習と反省の機会を提供するとともに、新たな医学研究のシーズを見出す契機ともなる。 本授業では、特に外科病理診断学では触れる機会の少ない非腫瘍性疾患の病態に重点をおいて、剖検症例の解析の基礎となる肉眼所見、組織所見を把握する能力を身につけることを目指す。						
(3)授業の概要/Overview of course	循環障害、炎症、免疫異常など、全身に及ぶ諸疾病での肉眼的所見及び組織学的所見について、病理学総論に基づいた基本的事項について解説するとともに、特殊染色の有用性など検索法の実際についても教授する。また臓器別の所見の判断についても解説する。さらに、組織化学、免疫組織化学や蛍光抗体法など、組織細胞レベルでの分子の局在を可視化する手法と診断への応用について解説するとともに、インサイツハイブリダイゼーション法など、分子生物学的な検索法に基本についても教授する。						
(4)授業計画/Course plan	1. 循環障害、炎症病変の肉眼・組織所見（2回） 2. 臓器別肉眼所見（2回） 3. 特殊染色の実際と有用性（2回） 4. 組織化学と蛍光抗体法（1回） 5. 免疫組織化学の基礎と診断応用（2回） 6. 免疫組織化学の展開と研究（1回） 7. 組織細胞レベルでの分子生物学的解析法（2回） 8. 症例検討（3回）						
(5)成績評価の方法・基準/Grading/evaluation method/evaluation criteria	授業終了後、小テストを実施することにより、その時間に扱った内容についての理解度を調べる。授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある(可)」，応用問題が解ければ「やや上にある（良）」，やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある（優）」，例題よりもかなり難しい応用問題が解ければ「卓越している（秀）」						
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書/Notes/Prep and review work/Textbook(s)/Reference work(s)	本講義はトピック的な話題を集めたものではなく、病理学の実践に必要な内容を系統的に積み上げていく形式の授業である。学会参加など致し方ない場合を除いて、授業には欠席することなく出来る限り出席すること。 毎回、講義資料を配付する。事前学習は特に必要としない。授業中での理解を心がけ、事後学習で理解状況を必ず確認すること。次回の授業の冒頭で、前回の授業内容についての質問を受け付ける。						
(7)質問,相談への対応/Questions and requests for advice	毎週火曜日16:00-17:00をオフィスアワーとする。医学部基礎研究棟2階病理組織学教室にて。事前にアポイントをとることが望ましい。電話0263-37-2607、内線5191、メールアドレスmendo@shinshu-u.ac.jp						
(8)授業の形式/Course format	PowerPointを用いた講義を主体とする。						